

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻

博士課程 3 年次

國澤 直史

1. はじめに

この度、国際交流助成金の援助を受け、韓国（ソウル）において開催された 46th Annual Meeting of the Japanese Society of Neuropsychopharmacology (JSNP)および 30th Collegium International Neuro- Psychopharmacologicum (CINP) WORLD CONGRESS OF NEUROPSYCHOPHARMACOLOGY へ参加し、自身の研究成果を発表したので報告する。



学会会場：COEX Convention & Exhibition Center



ソウル市内



宿泊したホテル：
瑞草アールニューボーシティ

2. JSNP とは

日本神経精神薬理学会（JSNP）は、第一回精神薬理談話会（1971年）に端を発し、1985年にJSNPとして正式に発足、2015年からは一般社団法人となった。この間、精神薬理学の学際的研究発表の場としてのみならず、臨床精神医学、薬理学、脳科学の研究者間、さらに最近では臨床薬剤師との情報交換と人的交流の場として活動を続けてきた。また、JSNPはCINPやアジア精神薬理学会（AsCNP）の日本の窓口としての役割を果たしており、国際連携を強化するとともに、日本からの学術情報発信にも取り組んでいる。

3. 46th Annual Meeting of JSNP について

前述のように、JSNPは基礎研究者と臨床家が連携して学会を運営している。そのため、本年会を通して、中枢神経系領域の基礎研究から医薬品開発における現状や課題、症例報告など多岐にわたる演題を聞くことができた。シンポジウム『ニコチン受容体と神経精神機能』の演題は、私の研究テーマとの関連が深く、神経精神疾患におけるニコチン受容体の重要性を改めて感じることができた。症例報告は副作用例、著効例を中心に4セッション（計16演題）あり、特に難治性統合失調症治療薬であるクロザピンの使用基準や副作用などに焦点を当てたセッションがあるなど、日本では使用例の少ないクロザピンへの注目度の高さが伺えた。

私は大会2日目に、“Analysis of causative brain regions for nicotine-induced seizures”という演題でポスター発表を行い、研究内容や実験方法について多くの参加者から質問やコメントを頂いた。本年会を通して得た知識、自分の発表に対して頂いたコメント、アドバイスを今後の研究活動に活かしていきたい。

また、大会初日に参加した懇親会において、CINP WORLD CONGRESS OF NEUROPSYCHOPHARMACOLOGYでの発表演題である“Pharmacological analysis of nicotine-induced tremor”が、JSNP Excellent Presentation Award for CINPに選出され、表彰を受けた。今後もこのような賞を受賞できるよう研究活動に励んでいきたい。



JSNP Excellent Presentation Award for CINP 賞状

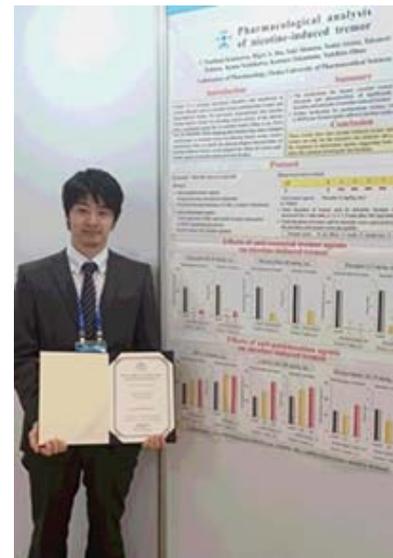
4. CINP とは

CINP (Collegium International Neuro-Psychopharmacologicum、国際神経精神薬理学会)は、約 60 年前にスイスのチューリッヒで設立された世界的な精神薬理学の学術団体である。本学会の目的は、神経精神薬理学の国際的な科学研究、教育、社会貢献の促進であり、精神医学、生化学、薬理学、安全性、治療効果など、向精神薬開発のあらゆる側面に関してアドバイスとコンサルテーションを提供している。

5. 30th CINP WORLD CONGRESS OF NEUROPSYCHOPHARMACOLOGY について

本学会には、神経精神疾患の研究、治療にあたっている演者が世界中から参加している。そのため、最新の基礎研究から薬物治療まで幅広い内容の演題を聞くことができた。中でも、うつ病に関連のあるシンポジウムに多くの参加者が集まっていた印象を受けた。現在、うつ病に対する薬物治療の有効性は 60%前後と満足のものではなく、また、多くの抗うつ薬の効果発現には 2~6 週間かかることが知られている。そのため、うつ病に対する新たな治療戦略への注目が高まっているのではないかと考える。本大会を通して、国際学会に参加することは、最新の研究に関する知識を得るだけでなく、どの研究領域が今世界で注目されているかを直に確認できるチャンスでもあると感じた。

私は、大会 3 日目に、“Pharmacological analysis of nicotine-induced tremor” という演題でポスター発表を行った。発表はフリーディスカッション形式であり、受けた質問に対する応対や意見交換を行った。私自身気になる発表について拝聴して回ったが、日本人以外の発表についてはほとんど質問することができなかった。英語の学力以上に、実際に使う能力、特に英語を話す能力の低さを痛感した。今後は、研究活動だけでなく、語学学習についても一層の努力を重ねていきたい。



CINP 発表ポスター前にて



CINP シンポジウム会場 : Auditorium

6. 終わりに

今回、国際交流基金の助成により、46th Annual Meeting of JSNP および 30th CIP WORLD CONGRESS OF NEUROPSYCHOPHARMACOLOGY に参加させていただくことで、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験を得ることができた。今回の発表では、自分の考えを英語で伝えることの難しさを再認識させられた。簡単な英語とジェスチャーである程度の内容は伝わることもあったと思うが、自分の考えや意見を完全に伝えることはできなかった。また、今回の学会では、外国人の発表に対する日本人の消極的な姿勢が印象に残った。今回の国際学会には多くの日本人が参加していたことも理由に挙げられると思うが、日本人の発表には日本の参加者が集まり、発表、質疑応答も日本語で、他国の参加者が入りづらい雰囲気を出していたのではないかと感じた。私自身も、日本人以外の参加者にはほとんど質問やコメントすることができず、悔しさ、もどかしさを経験した。今後、国際学会などに参加する際には、今回の反省を踏まえ、海外の方々とも積極的に討論したいと考えている。今回の経験を糧とし、今後の研究活動、語学学習に活かしていきたい。

最後に、このような機会を与えて下さった、大野行弘教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。